

白馬村第5次総合計画基本構想(案)に係るパブリックコメント等に対する村の考え方について

資料 1

番号	ページ 該当箇所	ご意見等の内容	ご意見等への対応
1	4P 1. 計画策定の意義	17行目「死者は0であり」の文章について、統計データの発表ではないので、「死者はなく」あるいは、「死者は発生せず」などに表現を改めてはどうか。	「死者はなく」に文言を修正します。
2	5P 2. 総合計画の構成	図中、「基本構想」の「基本構想に書かれていること」で「将来像と基本目標」とあるが、14P以降の見出しに「将来像」という文言が見当たらないので、修正すべきでは。	文言を統一し修正します。
3	10P ⑤外国人登録者の推移	外国人登録者数の推移の表は、本文中「通年で定住している外国人数は概ね200人弱」という記述と合致していないのではないか。年によって200人をはるかに超えている。集計月が統一されていないのではないか。	外国人登録者数の推移の表は、各年度末(3月)の登録者数を記載してありますが、就労による一時滞在者を多く含んでおり、通年居住者の実態を正しく示していないため、一時滞在者の少ない9月の登録者数で統一して表を作成します。
4	12P ⑨要介護認定者数の推移	財政健全化判断率の後ろに記載されているのは、ちょっと唐突な感じがする。要介護認定者ばかりではなく、「基本目標」の中に「障がいのある方にも関わりをもって暮らせる」という言葉もあるので、障がいのある方の状況も記載があった方がよい。	表の掲載順序について整理します。 白馬村の障がい者の推移について、指標を追加します。
5	14P ①白馬村の基本理念	下から3行目「また、住民、移住者が…」は、「旧来の住民」といった表現にしないと、「移住者」は住民ではないといった印象を受ける。居住年数にかかわらず共に白馬村民であるのだから、「住民」と「移住者」を対立させるような表現は避けるべき。	「住民」を「旧来の住民」に表現を修正します。
6	14P ①白馬村の基本理念	キャッチフレーズのサブタイトルについては、「学びあう」は「交流し学びあう」の方がよい。交流や融合なくして学びあうことはできない。学びあうだけでは受け身でしかなく、「交流し学びあう」ための「受け皿」「場」(機会)をつくって、お互いを認め合い、尊重し、いいところを発展させることが大事である。	サブタイトルを「多様であることから交流し学びあい成長する村」とします。
7	14P ①白馬村の基本理念	下から9行目「例えば、・・・予想されていませんでした。」は不必要だと思う。 下から3行目、住民、移住者に「村を訪れる観光客」を入れるべき。	文言を修正します。
8	14P ①白馬村の基本理念	キャッチフレーズについては、理念なので高いところから発する言葉、あるいは目標が良いと思う。	この基本構想のキャッチフレーズについては、白馬村に集う様々な立場の方が、互いを尊重し、互いを知り、学びあうことから、白馬村の隠れた価値や可能性を発見し、激しい社会環境の変化と共に乗り越え、10年後に一人ひとりが白馬村に在ることの「豊かさ」を実感できるような村づくりへの思いを込め、審議委員の皆さんと共に決めさせていただきました。何卒ご理解をお願いします。
9	14P ①白馬村の基本理念	基本理念とは考えられない。奇をてらったものではなく、少なくとも「理念」とうたっているならば、目指す「村づくり」の基本的な考え方が打ち出されるべきであり、それがあればこそ、村の方向性のぶれがなくなる。「白馬の豊かさとは何か」は計画を練るの考え方や着眼点にすぎず、「理念」として表明するものには該当しないと思う。後段の「基本目標」の中に「白馬の豊かさとは何か」に呼応する部分が明白に分からない。 理念は、少なくとも、将来の村の姿を示すものであってほしい。多くの税金を使い、多くの住民の知恵をもって作る以上、たとえ混迷の時代であっても、総合計画は誰もが分かりやすい村づくりの方向性を掲げるべきで、禅問答のような言葉使いを基本目標とすることは避けていただきたい。	この基本構想のキャッチフレーズについては、白馬村に集う様々な立場の方が、互いを尊重し、互いを知り、学びあうことから、白馬村の隠れた価値や可能性を発見し、激しい社会環境の変化と共に乗り越え、10年後に一人ひとりが白馬村に在ることの「豊かさ」を実感できるような村づくりへの思いを込め、審議委員の皆さんと共に決めさせていただきました。その村づくりを実現させるための施策の実現すべく目標として4つの基本目標を定めさせていただいたものですので、ご理解をお願いします。
10	14P ①白馬村の基本理念	下から6行目以下においては従来の「住民」と「移住者」を区別し、「従来の住民」に向けた文章となっている。一部の「住民」と「移住者」がしっくりいっていない実態があるから、「お互いが支え合う関係を作っていくことが重要」であることはもちろん重要だが、基本理念の文章に記載されて「従来の住民」はあまり良い感情を持たないのではないか。「そこに暮らす者同士が認め合い、お互いに支え合う関係を作る」きっかけ、問題提起なのか？	住民の皆さんからご意見をいただく中で、未だ旧来の住民と移住されてきた住民の間に壁を感じるといご意見を多くいただき、未だ白馬村の中での課題であることが認識されました。また、激しい社会環境の変化を乗り越えるためには、多様な立場の方が共に手を携えて村づくりを進めていくことが必要であり、旧来の住民と移住者とのさらなる交流の必要性を基本理念として記載させていただいたものですので、ご理解をお願いします。
11	15P ①白馬村の基本理念	1行目「社会体制」を「社会基盤」に、8行目「民宿などの伝統文化、・・・形成されていきました。」を「民宿などの伝統文化が形成され、世界的にもまれに見る山岳景観を有しています。」に、12行目「考え」を「捉え」に、17行目「時代時代の」を「その時々」に、下から6行目「村ごと自然公園」を「むらごと自然公園」へ変更し、13行目「また、」を、下から8行目「の維持」を削除するべき。	文言を修正します。

番号	ページ 該当箇所	ご意見等の内容	ご意見等への対応
12	15P ①白馬村の基本理念	下から2行目「ライフスタイル」は今後10年間使える言葉か疑問がある。	「暮らし方」という表現に修正します。
13	17P ③基本目標の4本柱 新しい仕事をつくり出す村	森林が荒れているため、間伐や間伐材利用の仕事を創り出せないか。	ご意見ありがとうございます。いただいたご意見につきましては、平成28年度で策定する基本計画の参考とさせていただきます。
14	17P～19P ③基本目標の4本柱	基本目標の4本柱については、いずれも前段が長すぎて、目標がはやけてしまっている。本来、目標が明確に記されるべきところなので、コンパクトにしてはどうか。 現状と課題を長く明記する必要があるなら、各目標に「現状と課題」と「基本目標」と分けて書いてはどうか。住民との協働には、住民に訴えかけることが必須であり、ただ長い言葉の羅列には工夫を願いたい。 現状と課題については、7Pの「白馬村を取り巻く状況」と被る部分もあり、今一度整理されることを望む。（「白馬村を取り巻く状況」には「神城断層地震」に関する記述があってもいいのではないか） あるいは、「状況」をもっと丁寧に拾い、ここでは「課題」のみに整理してもいいのではないか。今回の基本目標は魅力に乏しく非常に残念・ここから基本計画につながるのだから、もう少し明確に踏み込んだ内容を掲げ、住民に示す必要がある。	基本目標については文頭に表題を付け、整理します。また、今回の現状分析については、住民の皆さんからいただいたご意見などから見えてきた白馬村の課題から、従来より多くの指標を記載しており、ある程度基本目標と被る部分が出てくることはご容赦願います。また、今回の基本目標については、前述のとおり住民の皆さまからいただいたご意見より見えてきた課題により構成させていただきましたので、ご理解をお願いします。
15	18P ③基本目標の4本柱 一人ひとりが成長し活躍できる村	子どもにとって最良の教師は自然である。この素晴らしい白馬の自然の中で自由に思い切り遊べる様な場所や体制を作してほしい。（冒険公園や各地区の小公園など）	ご意見ありがとうございます。いただいたご意見につきましては、平成28年度で策定する基本計画の参考とさせていただきます。
16	18P ③基本目標の5本柱 一人ひとりが成長し活躍できる村	下から3行目「例えば、」を削除すべき。	文言を修正します。
17	19P ③基本目標の4本柱 一人ひとりが成長し活躍できる村	子育て世代の支援をもっと充実させてほしい。他の市町村に比べて子育て世代に対する公的サービスが少ない。ファミリーサポートセンターのような機関の設置や、スクールバスなど通学・通園にかかる親の負担を減らす施策を実施してほしい。	ご意見ありがとうございます。いただいたご意見につきましては、平成28年度で策定する基本計画の参考とさせていただきます。
18	19P ③基本目標の4本柱 魅力ある自然を守る村	下から5行目「将来に渡って」は「将来にわたって(亘って)」が正しいのではないか。	「わたって」に文言を修正します。
19	19P ③基本目標の4本柱 魅力ある自然を守る村	どこにも負けない景観が望める東山が十分に活かされていない。夢農場(嶺方)、野平、青鬼の自然を壊さないように整備をすれば、最高の観光地になると思う。特に夢農場は荒れる一方なので、行政にも援助をして欲しい。	ご意見ありがとうございます。いただいたご意見につきましては、平成28年度で策定する基本計画の参考とさせていただきます。
20	20P 3. 総合計画の推進	「開かれた村政と村民参画の推進を村政運営の基本とします」は非常に重要だと思う。しかし、それが現実に実行されなければ意味がない。「開かれた村政」の実行について言及していただきたい。	開かれた村政の実行がこれからの時代においても重要であることは認識しています。平成28年度で策定する基本計画において、住民の皆さんからのご意見もお聞きしながら、実行を担保する具体的な方策も検討して参ります。
21	基本理念と基本目標の関係性について	「白馬村の豊かさとは何か」を実現するとはどういうことか？「豊かさとは何か」を実現させる基本目標は4つというのは理解できない。基本目標を設定し実現させるための考え方の基本が「白馬の豊かさとは何か」であれば理解できなくもないが、難解である。	この基本構想のキャッチフレーズについては、白馬村に集う様々な立場の方が、互いを尊重し、互いを知り、学びあうことから、白馬村の隠れた価値や可能性を発見し、激しい社会環境の変化と共に乗り越え、10年後に一人ひとりが白馬村に在ることの「豊かさ」を実感できるような村づくりへの思いを込め、審議委員の皆さんと共に決めさせていただきました。その村づくりを実現させるための施策の実現すべき目標として4つの基本目標を定めさせていただきましたので、ご理解をお願いします。
22	その他	外国人来訪者にも分かりやすい村内住所の表示方法について工夫が必要ではないか。「神城」「北城」だけでは分かりにくい。	ご意見ありがとうございます。いただいたご意見につきましては、平成28年度で策定する基本計画の参考とさせていただきます。

番号	ページ 該当箇所	ご意見等の内容	ご意見等への対応
23	その他	八方、エコランドなど、歩行者が増加している地区では、特に冬シーズンで道幅が狭くなる時期には、車道と共用になり大変危険である。観光地として早急に改善すべき。	ご意見ありがとうございます。いただいたご意見につきましては、平成28年度で策定する基本計画の参考とさせていただきます。
24	その他	オリンピック道路からのアルプスの眺望が、道沿いの住宅等の増加で悪化している。また、廃屋の増加や、今まで建物の無かった地域に新たに建物が建つなど、村全体の景観は悪化するばかりである。住宅建築は現在の住宅地域内で対処すべきではないか。	ご意見ありがとうございます。いただいたご意見につきましては、平成28年度で策定する基本計画の参考とさせていただきます。
25	その他	オリンピック道路等の眺望の良いスポットに、行政が撮影スポットなどを整備し、景観を保つと共に観光客に安全に眺望を楽しんでもらえる環境整備を。	ご意見ありがとうございます。いただいたご意見につきましては、平成28年度で策定する基本計画の参考とさせていただきます。
26	その他	基本構想(案)は非常によくできている。具体的な施策の策定にあたって大事なものは、1. 村民の英知を結集すること、2. コンセンサスを得ることである。(過去の施策はコンセンサスがなかったため成果が出ていないことが多すぎる。)そのためには村民全員と議論することがベストの選択である。期間は1年程度、月1回程度の議論を行い、村民全員が考え、意見を出せば素晴らしい具体策が出る。ここで絶対に欠かせないものは「どんな村にするか」、誰もが一言で言い表せる表現が必須である。	ご意見ありがとうございます。平成28年度で策定する基本計画については、各地域からご意見をいただきながら、時代と地域に合った計画を策定して参りたいと考えています。そのためにも、いただいたご意見を参考にしながら、住民の皆さまと議論する機会を作って参ります。
27	その他	誰かに作ってもらった基本構想という印象。自分たちの、特に職員の考えが入っていないことが一目瞭然である。キャッチフレーズも実に平凡でつまらない。新年度で仕切り直し、もう一度組み立てなおした方がいい。基本計画をしっかりと作り上げ、それを要約して10年を見通すことでしっかりと基本構想が出来るということに分かっていない。	ご意見ありがとうございます。この基本構想については、たくさんの住民の皆さんからのご意見をいただき、また白馬村役場庁内でもこれまでの課題を検討しながら作成したものですので、ご理解をお願いします。また、基本計画については平成28年度での策定となりますが、より地域のご意見をお聞きしながら、基本構想を基に、時代と地域に合った計画を策定して参ります。
28	その他	白馬村、本村、当村の用語を統一すべき。	用語の統一をします。
29	その他	この基本構想については5Pの図にある「将来像と基本目標」のうち将来像を記述しただけで、基本目標まで立ち入っていない入口だけの内容であると感じた。16Pの「4つの基本目標」は期限を切って達成できるものではなく、4つの将来像というべきもの。一般に計画は目標の設定から始まるので、基本目標というからには基本的な到達点を明示すべき。前文には人口減少、少子高齢化、観光客の減少などの問題点が列挙されており、これらの問題を5年後、10年後においてどのように改善するかを主要な課題についての目標(値)を明示すべき。そのような目標が明示されて初めてその目標を実現するための基本目標が立案され、更に実施計画が策定されるものと思われる。漠然とした将来像とそれにまつわる問題点を列挙し、その改善の必要性を記述しただけでは基本構想とはならない。 計画とは将来実現しようとする目標(値)を定め、その目標(値)を達成するための手段を明示し、それをもとにPDCAを回すことによって計画の実現が図られるのであり、まずしっかりと基本目標(値)を策定することから始めるべきである。 また、5Pの総合計画の構成と、14P以降の実際の見出しに整合性が取れておらず、内容の吟味が不十分。 今の段階でこの基本構想を大幅に見直すことは難しいであろうから、字句の整合性を図り、次の基本計画立案の段階で、上述したような基本目標(値)をまず策定し、その上で次の実施計画につなげていってほしい。	ご意見ありがとうございます。具体的な目標(値)については、4つの基本目標に基づき、平成28年度から策定する基本計画において施策ごとに策定したいと考えています。また、文章構成の不整合については修正を行います。